

「未来を築いていくためには、まずは事実を知ること」

私は10代後半で、原子力に夢をかけました。

そして、原子核工学科をわざわざ選んで大学に入りました。

しかし、私が原子力にかけた夢はことごとく誤りでした。

原子力発電所が安全でないことは、残念ながら2011年3月11日に起きた福島第一原子力発電所事故で事実をもって示されました。

原子力が未来のエネルギー源にはならないこと、安価でもないこともすでに分かっています。

その上、原子力を利用することで生み出す核のゴミの始末の仕方すら知らず、未来永劫の子どもたちに押し付けるしかありません。

その上、日本で「原子力」と呼ばれるものは「核」と同じです。

平和で穏やかな世界を築こうとするのであれば、原子力はその対極にあります。

若い人たちが誤った選択をせず、未来を築いていくためには、まずは事実を知ることが大切だと私は思います。



(写真撮影：松岡広樹)

《小出 裕章 Koide Hiroaki》

1949年、東京都生まれ。

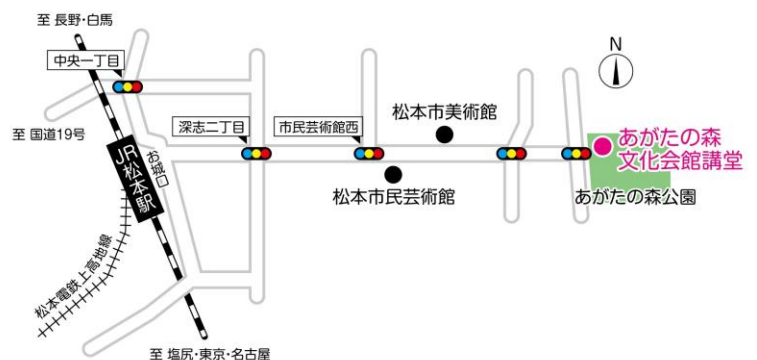
68年、原子力平和利用の夢を抱いて東北大学工学部原子核工学科に入学するが、女川原発の建設計画で原子力発電の危険性に気づき、以後一貫して反原発の立場から研究と発言を行う。

元京都大学原子炉実験所助教。

2015年3月に定年退職し、松本市に移住。

著書「原発と日本人～自分を売らない思想(角川学芸出版)」では、「私たち一人ひとりがしっかりと知識をつけ、自分で判断できるようになる必要がある。『自分は騙されていた』という言い訳は通用しません。・・・(省略)・・・これまでもそうでしたが、これからはさらに騙されないようにする責任が、市民一人ひとりにある」と述べている。

●会場までの地図



※最新情報は、こちらのホームページから取得してください。

<http://7colors.org/nw/>